

## 中間評価結果（公表様式）

16

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 大学名   | 北海道大学                |
| 研究施設名 | 触媒科学研究所              |
| 拠点の名称 | 触媒科学拠点               |
| 認定期間  | 平成28年4月1日～平成34年3月31日 |

### 1. 拠点の目的・概要

#### 【目的・意義・必要性】

持続可能社会の実現という喫緊の課題を解決するには、革新的触媒開発と実用化が求められている。そこで、多様な異分野研究を取り込み、国内外の研究者との共同研究を通じて、革新触媒の開発と実用化に必要な触媒科学研究拠点構築を目的とする。

#### 【取組内容・期待される効果】

触媒科学の公募型共同研究の実施、組織間連携研究の推進、基礎から実用化までの幅広い共同研究体制構築、情報発信型国際会議や人材交流によるグローバル拠点形成、知の集約と発信などを行う。その結果、触媒科学研究を深化・発展させ、革新触媒を開発・実用化することで、持続可能社会の実現へ貢献する。

### 2. 総合評価

#### （評価区分）

B：拠点としての活動は行われているものの拠点の規模等と比較して低調であり、作業部会からの助言や関連コミュニティからの意見等を踏まえた適切な取組が必要と判断される。

#### （評価コメント）

研究活動面については、インパクトファクターの高い学術誌に発表された論文が多く、優れた研究業績を上げている。一方、共同利用・共同研究拠点としての活動の量的指標については、公募型共同利用・共同研究の件数、受入人数及び施設・設備の利用状況等が十分とは言えない。

今後、触媒科学分野における研究機関としての優れた活動を発展させつつ、共同利用・共同研究への参加を促進するための様々な方策について積極的に検討することが望まれる。

### 3. 観点毎の評価

|  |
|--|
| ①拠点としての適格性   |
| (評価コメント)<br>インパクトファクターの高い学術誌への論文発表状況等から、共同利用・共同研究を推進し、環境、資源、エネルギー触媒に関して優れた研究業績を上げている。共同利用・共同研究拠点における受入件数や施設利用件数は、多いとは言えない。 |
| ②拠点としての活動状況  |
| (評価コメント)<br>共同利用・共同研究の件数、受入人数及び施設・設備の利用状況等が十分とは言えず、参加を促進する積極的な取組が望まれる。   |
| ③拠点における研究活動の成果   |
| (評価コメント)<br>関連分野の上位10%以内にランクされる論文を多く産出しており、質の高い優れた研究成果が生み出されている。また、公開講演会やセミナーも活発に開催されている。                                  |
| ④関連研究分野及び関連研究者コミュニティの発展への貢献  |
| (評価コメント)<br>「課題設定型」の共同利用・共同研究の公募、附属触媒連携研究センターの設置、シンポジウムの開催等により、関連研究者コミュニティの発展に貢献している。                                      |
| ⑤審査(期末)評価結果のフォローアップ状況  |
| (評価コメント)<br>共同利用・共同研究の応募件数の減少や施設・設備の利用状況の改善の対応を検討しているが、改善には至っていない。   |
| 【以下、該当する拠点のみ】  |
| ⑥期末評価結果のフォローアップとして、各国立大学の強み・特色としての機能強化への貢献   |
| (評価コメント)<br>学術国際交流協定の締結等による国際化に向けた体制作りを進めている。また、人材の流動化を図るため、産業技術総合研究所との間でクロスアポイントメント制度を開始した。                               |
| ⑦拠点としての今後の方向性  |
| (評価コメント)<br>持続可能社会の実現に向けた触媒物質に関する新たな学術基盤の構築や海外における情報発信の強化により国際的な拠点形成を目指しており、今後の進展が期待される。                                   |